

地域の課題 (第1回検討グループ)

【ヒト】活動を担う人材が集まらない

新たに人が集まらないため、中心人物が失われると活動停止

人材確保・育成のための資金が十分でないことが課題

人材面全般における課題(N=122, 上位3)

- ・人材を育成する資金的、人的余裕がない(43.4%)
- ・団体の活動地域に十分な人材がいない(20.5%)
- ・資金が十分ではなく、人材が集まらない(20.5%)

【モノ】地域に資産はあるが、活動に提供されない

地域にある様々な資源を有効に投入できないため、展開・拡大が困難

収支計算書に反映されない地域からのサービス提供、無償労働の提供も貴重な資源となっている

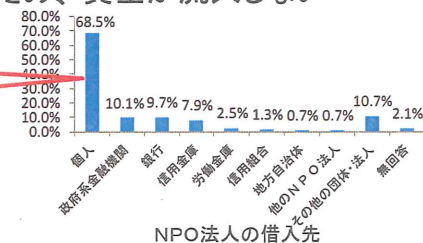
地域からの資金提供(N=122, 上位3)

- ・活動に人材(臨時のボランティアを含む)を派遣(46.7%)
- ・イベントなどで利用する施設や用地を無償、低価格で提供(20.5%)
- ・活動の宣伝、広報を無償、通常よりも低価格で提供(40.2%)

【カネ】地域の資金が現場に流れない

ビジネスモデルがないため、資金が流入しない

資金の借入れ先は個人(知人、縁故)が大部分



【チエ】必要なノウハウが集まらない

経営に必要な情報が分散し、個々の主体ではノウハウや事業情報の整備が困難

寄付、融資、商品等の販売方法、人材獲得等に関する情報・ノウハウが不足しているという意見が多い

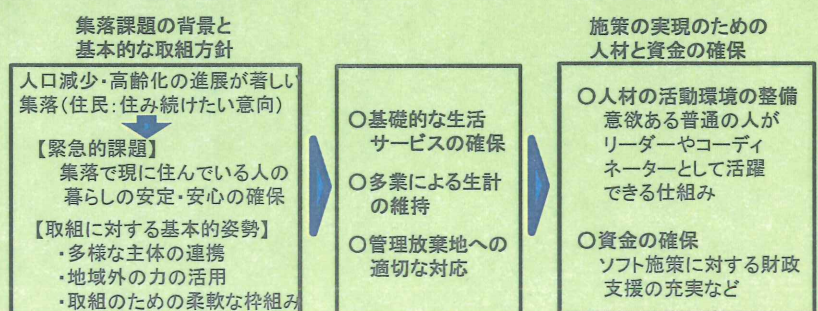
情報・ノウハウ面における自己評価結果【自己評価が低い項目】

1. 寄付に関する情報・ノウハウ(2.24点)
2. 融資に関する情報・ノウハウ(2.34点)
3. 商品、サービス等の販売方法(2.59点)
4. 人材獲得に関する情報・ノウハウ(2.68点)
5. 商品、サービス等のPR方法(2.77点)

【構造的課題】

地域活動に必要な要素が集まり、自発的課題解決につながる環境が整備されていない。(過疎集落等における拠点・場、地域の志ある投資循環、リーダー人材育成など)

出典:「平成22年 集落課題検討委員会中間とりまとめ」等より構成

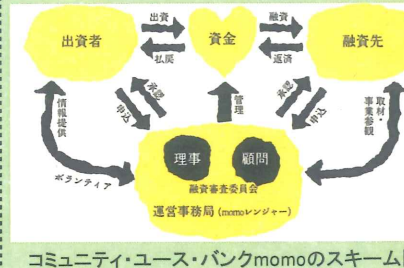


地域の取組からの示唆 (第2、3回検討グループ)

市民の善意を活動にむすびつけ、資金+スキル支援をしよう
【例】出資金を、NPOやコミュニティビジネスなどの地域課題を解決する事業への融資とハンズオン支援を実施

市民金融(NPOバンク)の取組

(事例)コミュニティ・ユース・バンクmomo
○2005年に、20～30代の若者が中心となって設立した市民による市民のための金融システム(NPOバンク)
○出資金を、地域課題を解決する事業へ融資するとともに、融資先の情報発信などの非資金的支援も実施

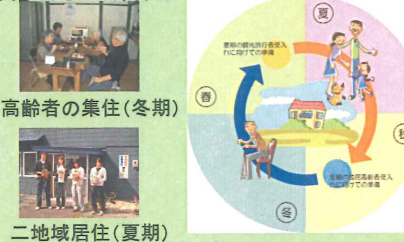


地域の資源を活動に動員しよう

【例】地域の空き家を、冬期は高齢者の集住に、夏期は都市住民に「二地域居住者用施設」として活用

「新しい公共」の担い手の取組 (地域資源)

(事例)「NPO法人グラウンドワーク西神楽」(北海道旭川市)



人材活用と新しい財・サービス生産へ

【例】地震により被災した土蔵の修復に向け、コミュニティファンドを構築。

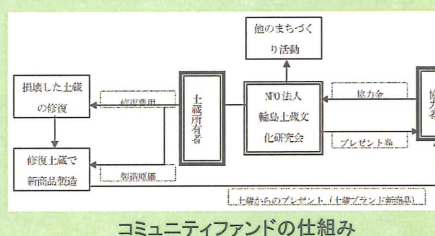
・出資者からの出資により、土蔵を修理・運営する人材を育成し、地域で土蔵商品や環境サービスを提供



協力者へ贈呈された土蔵からのプレゼント

「新しい公共」の担い手の取組 (人材活用)

(事例)「NPO法人輪島土蔵文化研究会」(石川県輪島市)



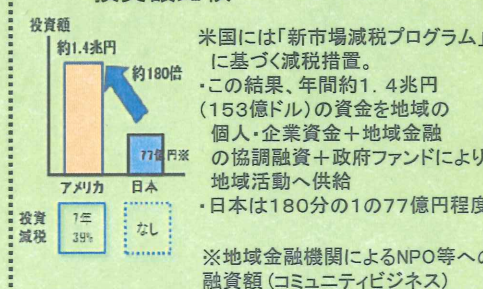
金融機関の力で地域のヒト・モノ・カネ・チエを結びつけよう

【例】NPO等の地域活動に対し、目利きを行い、必要な助言を与え、つなぎ資金、運転資金、設備資金等を融資。

地域金融機関の取組

- ①ろうきん
 - ・NPO事業サポートローン
 - ・助成金などのNPO支援を実施
- ②西武信用金庫
 - ・コミュニティビジネスへの支援
 - ・コミュニティローン
 - ・事務所提供、助成などを実施

日米の市民社会活動等への投資額比較



4. 政策実施の基本的方向性 (市民と行政の協働、経済メカニズム実現)

- 担い手の特性に応じた対応
- 地域活動が雇用と収入、生き甲斐を生む
- 専門性と志を持つ市民の社会参加
- 多様な意見を持つ担い手による協働
- 活動プロセス・段階に応じて柔軟な支援
- コミュニティ～広域レベルの幅広い支援
- 活動経験が主要キャリアパスへ

論点整理と政策的方向性 (第4回検討グループ)

1. 担い手に対する資金・資源の支援

- 資金+ハンズオン支援の連携
- 寄付に加え、地域に投資と融資を
- 資金を地域内部で回転させるしくみ
- 既存金融機関と市民金融との連携
- 地域通貨、パウチャーなど多様なしくみ

2. 担い手に対する経営・ノウハウなどの非資金的支援

- 大学の地域づくり参加
- 地域をつくる人を「創る」
- 目利き人材を「創る」
- まちづくり＝地場産業復興
- ビジネスとして成功する活動へ

3. 担い手と地域、行政の協働 (非営利組織の地域内連携)

- 市民セクターが強化され、地域と行政が切磋琢磨する社会の実現
- 担い手からの政策提言のしくみ
- 中間支援は行政代行型から事業提案型へ
- 連携による内発型地域ポテンシャル発現

【参考】事例に基づく課題の整理

【ヒト】働き手の減少と地域経済の問題

「NPO法人楽笑」(愛知県蒲郡市)

地域の産業(水産加工)の担い手が不足し、地域が衰退
→担い手を確保し、地域を活性化できないか?

【生産設備に投資】

- 障がい者等様々な担い手の参加
- 売上で地域内の交流活動を実施



生産の現場(自然干しでの製造)



販売活動

自然干しで干物を製造、販売。ロコミ等により売上も格段に増加し、大都市部への販路も拡大。

(地域の課題1)活動を担う人材が集まらない

新たに人を集めることや、中心人物の世代交代がうまくいかなければ、活動の継続は難しい。

【カネ】金融の力による地域のヒト・モノ・カネ・チエの結びつけ

「コミュニティ・ユース・バンクmomo」(愛知県名古屋市)

地域の志あるお金は一定程度存在するが、地域に再投資されない
→地域のお金を活用し、地域を豊かにする事業はできないか?

【NPOバンクの設立】

- 若者が中心となった市民金融(NPOバンク)の設立
- 地域課題を解決する事業を行う個人・団体に対し融資を実施



NPO等の地域活動に対し、目利きを行い、必要な助言を与え、つなぎ資金、運転資金、設備資金等を融資

(地域の課題3)地域の資金が現場に流れない

活動の担い手がビジネスモデルを構築できなければ、地域の志あるお金の資金循環は進まない。

【モノ】生活機能の維持存続の問題

「NPO法人グラウンドワーク西神楽」(北海道旭川市)

雪の降る地域のお年寄りの暮らしが心配
→冬期にお年寄りが安心して暮らせるようにできないか?

【空き家改修に設備投資】

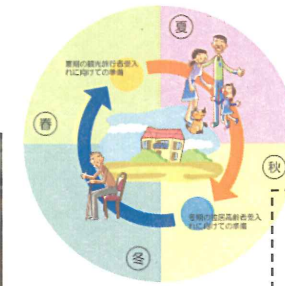
- 空き家を使った冬期の集住の取組
- 夏は二地域居住の滞在用に貸出



空き家を活用した冬期集住施設



高齢者の集住(冬期)



二地域居住(夏期)

冬期は高齢者の集住に活用。
夏期は都市住民に「二地域居住者用施設」として活用。

(地域の課題2)地域の資源が活動に動員されない

地域にある様々な資源を有効に投入できなければ、活動の展開や拡大は難しい。

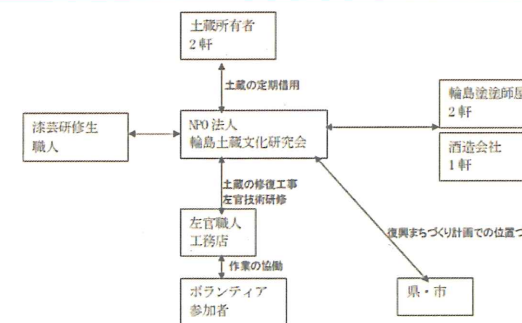
【情報・ノウハウ】NPOによる震災復興コミュニティファンドの構築

「NPO法人輪島土蔵文化研究会」(石川県輪島市)

震災で被災した土蔵を修復したい。
→地域の資金の活用や人材育成ができないか?

【土蔵改修に設備投資】

- 研究会が中心となった多様なプロジェクト参加者の協働体制の構築
- コミュニティファンドを構築し、出資金で土蔵修復、人材育成等を実施



出資者からの出資により、土蔵を修理・運営する人材を育成し、地域で土蔵商品や環境サービスを提供

(地域の課題4)必要なノウハウが集まらない

経営に必要な情報が分散し、個々の主体ではノウハウや事業情報の整備が困難

「新しい公共」の担い手から見た構造問題

